港湾技術のいまin中国'08

～港湾技術研究者の報告～

■日時　平成20年9月24日（水）13：30～17：15
13:00～受付

■会場　広島合同庁舎1号館付属棟 2階大会議室

■主催　国土交通省 中国地方整備局
国土交通省 国土技術政策総合研究所
独立行政法人 港湾空港技術研究所

講　演　内　容

13:40～13:50 **「国土技術政策総合研究所 紹介」**
国土技術政策総合研究所　管理調整部長　　宮地　豊

13:50～14:00 **「港湾空港技術研究所 紹介」**
港湾空港技術研究所　特別研究官　　島田　敬

14:00～14:25 **「高潮による漂流物挙動予測」**
国土技術政策総合研究所　沿岸海洋研究部沿岸防災研究室
主任研究官　　熊谷　兼太郎

14:25～14:50 **「気候変動に伴う瀬戸内海の潮位特性の変化」**
港湾空港技術研究所　海洋・水工部　海象情報研究領域　海象情報研究チーム
チームリーダー　　河合　弘泰

14:50～15:00　**質疑応答**

15:00～15:15　**休　憩**

15:15～15:40 **「泥干潟を視野に入れた多様な生物生息場の造成」**
港湾空港技術研究所 海洋・水工部　沿岸環境研究領域　沿岸環境研究チーム
主任研究官　　桑江　朝比呂

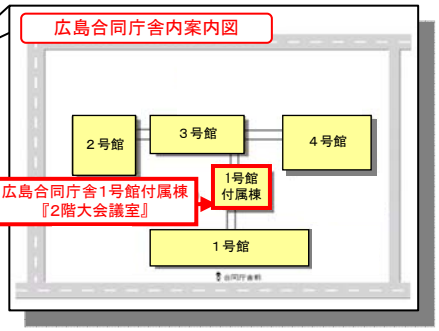
15:40～16:00 **「備讃瀬戸海域における環境修復に向けての取組み」**
中国地方整備局　宇野港湾事務所　沿岸防災対策官　　明瀬　一行

16:00～16:10　**質疑応答**

16:10～16:35 **「サンドコンパクションパイル改良地盤の変形挙動について」**
港湾空港技術研究所　地盤・構造部　地盤研究領域　地盤改良研究チーム
研究官　　高橋　英紀

16:35～17:00 **「油回収技術の研究開発のご紹介」**
港湾空港技術研究所　施工・制御技術部　情報化技術研究チーム
チームリーダー　　吉江　宗生

17:00～17:10　**質疑応答**



●聴講ご希望の方は、TEL、FAXいずれかの方法にてお申し込みください。
ただし、先着100名様程度を予定しております。満席になり次第締切りとさせていただきます。

お申し込み先・お問い合わせ
国土交通省中国地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課
〒730-0004 広島市中区東白島町14番15号　ＮＴＴクレド白島ビル13階
ＴＥＬ　０８２-５１１-３９０８
ＦＡＸ　０８２-５１１-３９１０

港湾技術のいま in 中国 '08　～港湾技術研究者の報告～

○開催日時：平成２０年９月２４日（水）　１３：３０～１７：１５

○会　　場：広島合同庁舎１号館付属棟　２階大会議室

プログラム

13:30　**開　会**

13:30 ～ 13:40　**挨　拶**

中国地方整備局　副局長　中野　正則
独立行政法人　港湾空港技術研究所　理事長　金澤　寛

13:40 ～ 13:50　**「国土技術政策総合研究所 紹介」**

国土技術政策総合研究所　管理調整部長　宮地　豊

13:50 ～ 14:00　**「港湾空港技術研究所 紹介」**

独立行政法人　港湾空港技術研究所　特別研究官　島田　敬

14:00 ～ 14:25　**「高潮による漂流物挙動予測」**

平成 16 年台風 16 号に伴う高潮により、瀬戸内海の諸港で既往最高潮位を記録した。その際、水島港玉島地区のふ頭に蔵置された空コンテナ１５本が海上に流出し漂流・沈没した。そこで、高潮の計算結果及び海上風の推算結果を用いたコンテナ漂流の追算を行っている。瀬戸内海の諸港では今後も高潮の発生が予測されることから、この手法がコンテナ漂流範囲の予測、安全な蔵置場所の計画等に活用されれば幸いである。

国土技術政策総合研究所　沿岸海洋研究部
沿岸防災研究室　主任研究官　熊谷　兼太郎

14:25 ～ 14:50　**「気候変動に伴う瀬戸内海の潮位特性の変化」**

近年になって瀬戸内海沿岸では高潮災害が頻発しており、将来の気候変動によってますます増加することが危惧されている。そこで、過去約半世紀間の高潮を再計算するとともに、将来の平均海面上昇や台風強大化が潮位特性に及ぼす影響についての試算結果を報告する。

独立行政法人　港湾空港技術研究所　海洋・水工部
海象情報研究領域　海象情報研究チーム　チームリーダー　河合　弘泰

14:50 ～ 15:00　**質疑応答**

15:00 ～ 15:15　**休　憩**

15:15 ～ 15:40　**「泥干潟を視野に入れた多様な生物生息場の造成」**

砂質の浚渫土砂を用いた干潟・浅場造成技術は近年全国的に広がりをみせ、二枚貝が順調に定着するなどの成功事例も数多い。しかし一方で（１）良質な被覆砂材の確保が困難なこと、（２）泥質の浚渫土砂の有効利用、（３）泥干潟におけるアサリの定着が困難であること、などを考慮すると、今後はアサリ以外の生物をターゲットとした泥干潟造成技術の開発が必要となる。

独立行政法人　港湾空港技術研究所　海洋・水工部
沿岸環境研究領域　沿岸環境研究チーム　主任研究官　桑江　朝比呂

15:40 ～ 16:00　**「備讃瀬戸海域における環境修復に向けての取り組み」**

中国地方整備局では水産庁と連携し、瀬戸内海沿岸域の開発等によって失われた藻場・干潟の修復を総合的かつ計画的に進めるため、平成１８年度より備讃瀬戸を対象海域として環境修復計画・技術の検討を進めている。

講演では、海砂深掘跡の修復技術を主な対象として、備讃瀬戸海域の現状分析に基づく環境修復の取組みの方向性と現地実証試験の概要について紹介する。

中国地方整備局　宇野港湾事務所
沿岸防災対策官　明瀬　一行

16:00 ～ 16:10　**質疑応答**

16:10 ～ 16:35　**「サンドコンパクションパイル改良地盤の変形挙動について」**

サンドコンパクションパイル工法（締固め砂杭工法）を施された粘性土地盤上にケーソン式岸壁を築造する場合を想定して、埋立部から傾斜荷重を受ける改良地盤の挙動について最新の研究成果を報告する。具体的には、遠心模型実験結果とFEM解析結果を概説し、限界状態に至る改良地盤の挙動に関する一考察を紹介する。

独立行政法人　港湾空港技術研究所　地盤・構造部
地盤研究領域　地盤改良研究チーム　研究官　高橋　英紀

16:35 ～ 17:00　**「油回収技術の研究開発のご紹介」**

船舶の衝突や座礁などの事故は燃料油の流出事故に直結するものである。また、製油所の火災など、沿岸部に立地する事業所からの油流出への対応も十分に想定すべきである。港空研の油回収資機材の技術開発は、こうした際の最も高性能、あるいは機動的な早期対応を適えられるような性能を目指している。このため、大型模型または実機による実油試験を行い、それらの経験からISOの基準作りにも参加し、国際的に高レベルな技術を蓄積している。最近は工事用作業船を緊急時に油回収船として活用するためのアタッチメントの開発のため、境港で運用試験を行なうなど、研究開発の範囲を拡充している。

独立行政法人　港湾空港技術研究所　施工・制御技術部
情報化技術研究チーム　チームリーダー　吉江　宗生

17:00 ～ 17:10　**質疑応答**

17:10 ～ 17:15　**挨　拶**　中国地方整備局　港湾空港部長　東山　茂

17:15　**閉　会**